

静岡

富士山は、「富士山信仰」という山岳に対する固有の文化的伝統、顕著な普遍的意義を持つ芸術作品との直接的・有形的な関連性が評価され、平成25年6月、世界文化遺産に登録された。

世界の宝である富士山の顕著な普遍的な価値を後世に継承していくため、静岡県では、平成23年度に富士山世界遺産センター（仮称）基本構想策定委員会を設置、以降約7年間の検討・調整及び、約41億円の建設費を投じて、昨年12月23日に「静岡県富士山世界遺産センター」が開館した。

初代館長には、富士山の世界文化遺産登録に御尽力を賜った、元文部科学大臣の遠山敦子氏をお迎えし、富士山を「深く究める」調査研究の実施、その研究成果を基に、富士山を「永く守る」、「楽しく伝える」、「広く交わる」事業を幅広く展開することで、富士山を多角的に紹介している。

「静岡県富士山世界遺産センター」が開館

センターに来館すると、まず独創的な建物が目を引く。日本を代表する建築家坂茂氏が手がけたものであり、地元の「富士ひのき」が繊細に組み上がることで作り出される逆さ富士を模した逆円錐形の壁面が、前面に広がる水盤に映り込むことで姿を表す富士山の形は一見の価値がある。

館内では、全長193mにわたる螺旋ロープを、タイムラプスやアニメーション映像で壁面に映し出される、富士登山をする登山者の目線の風景を見ながら登ることで、富士登山を疑似体験できる。最上階には、富士山が正面となるように設計された壁一面のピクチャーウィンドから、本物の富士山を見ることができる。晴れた日にはバルコニーに出て、遮る物の無い富士山を楽しむ。

本物の富士山を堪能した後は、スロープを下りながら展示を観覧する。センターでは、触れる地球儀等を用いて地球規模での富士山の形成に至る歴史を紹介する「荒ぶる山」、タッチモニターを用いた体験型展示で富士山への信仰を紹介する「聖なる山」、原寸大の絵画の投影や富士山絵画画像を情報端末で、美術や文学に表された富士山を紹介する「美しき山」、駿河湾から富士山という日本一の高低差を左官造形で表現し、高山帯から駿河湾までの生態系を紹介する「育む山」、地層模型と情報端末による宝永噴火の被害状況の紹介等、人と富士山の未来を考える「受け継ぐ山」の5つの常設展示を御覧いただける。

その他、265インチのスクリーンに高精細な4K映像で富士山の自然や文化を紹介する映像シアター、重要文化財の展示も可能な企画展示室、富士山の書籍、映像及び記録等データベースが閲覧可能なライブラリーなども用意している。

開館時間は午前9時から午後5時まで（7、8月は午後6時まで）、休館日は毎月第3火曜日及び年末年始、観覧料は個人300円、大学生以下、70歳以上及び障害者等は無料。

JR身延線富士宮駅から徒歩約8分、新東名新富士IC及び東名富士ICいずれからも車で約15分。周辺には、全国の浅間神社の総本社富士山本宮浅間大社や、その境内に湧く湧玉池を水源とした神田川がセンター脇を流れる等、観光地もある。是非、静岡県富士山世界遺産センターにお越しいただきたい。



写真撮影:平井広行

「静岡県富士山世界遺産センター」の外観